

平成 26 年 9 月 25 日 自民党行政改革推進本部ヒアリング 槇文彦グループ 中村勉 大野秀敏 質問

JSC 理事長 河野一郎殿

貴下ご配慮賜りありがとうございます。

本日は自民党行政改革推進本部ヒアリングにて、下記質問をさせていただきます。時間の関係で一部しかご説明できませんが、後日で結構ですが、文書にてご回答くださいますよう、よろしく申し上げます。

平成 26 年 9 月 25 日

槇文彦グループ

槇文彦、中村勉。大野秀敏、元倉真琴、山本圭介、古市徹雄他

A. : 景観環境

1. 近接景観

沈黙の土木架構施設 ※1

■競技場は近くで見上げると、人気のない、大規模な土木的館（やかた）のような景観です。このような施設は遠くから眺めるか、厚い緑で緩衝するなど、視覚的影響を和らげる空間が必要ですが、どのようにお考えでしょうか。

2. 歩行者に対するアメニティ、ビル風の影響

300 日間使われない、人通りの少ない場所、

■外苑西通り沿いには公開空地として数百 m に渡って開放されている、人通りの少ない暗いピロティ空間が続いています。犯罪の危険性や歩行者に対するアメニティのない空間であることを、どのようにお考えでしょうか？

3. 博物館の位置

奥に後退し過ぎ

■外苑西通りの仙桃院交差点北に博物館が計画されています。本来なら西通りの歩行者に対して、分かりやすく、入りやすい位置にするべきですが、ピロティの奥（oom）に後退しています。もっと街に活気を与える配置は無いのでしょうか？

4. 西側人工地盤上広場

数百 m 壁面も含め無表情 ※2

■西側の人工地盤上の広場は、高木緑化もなく、低木の植栽が縁を隈取り、数百mに渡る間、10m以上の高い無表情な列柱とその上に30mもの壁がそそり立っています。街の表情として、これをどうしたら活気のある空間とする計画でしょうか？

5 外苑西道路側 壁面とその背後

数百 m、夜間の犯罪の懸念

■外苑西通り側の高い壁面とその背後の暗い空間は、夜間の犯罪の懸念が指摘されています。この懸念に対する対策は、空間的、設備的、組織制度的にどのような対策をお考えでしょうか？

6.: 森の保全

周辺の森は工事で殆ど伐採される。 外苑西通り沿いの森は壊滅

■周辺の森はつぶされることはないと言いました（※）が、西と南の明治公園の森は人工地盤で壊滅です。東の森も、工事の際は皆伐されることが予測されます。それに対して40mの高さの木を輸入移植する噂もありますが、本当はどのような計画でしょうか。現在何本あり、何本を伐採し、何本を移植して、同じ状態にする計画ですか
（※サワコの朝）

B.: 天然芝育成保護の諸問題

1. 日光

高所の開口からの日照は非効率

■60m下の天然芝の育成にとって、高所の開口からの日照は四方の高い壁面により、日陰が殆どで十分な直射日光が当たらず、非効率です。そのためにガラスの屋根が増設されていますが、これも十分ではありません。芝生の生態系から必要な日照はいくらで計画はいくらか、5mメッシュでお答えください。

2. 通風、夜露

人工通風装置、夜露水補給装置の運転費高価

■天然芝育成に必要な通風や夜露も不十分です。通風の開口部を用意しているとの説明でしたが、大音響の遮音対策で開口部はサッシが必要となり閉鎖されます。通風と遮音の両立する手法とその効果をお示しください。そして、無蓋競技場では十分な自然通風が有蓋では不十分となり、人工空調・通風装置とポップアップ式のスプリンクラーが必要となります。その余分な装置のコスト、運転費をお示しください。

3. 南面透過ガラス (約1万㎡)

初期建設費用、清掃費、メンテが高価、室内の温度上昇懸念

■有蓋案では芝生成のために日照が不足します。そのため5・29案では南面屋根に透過ガラス(約1万㎡)を追加計画しましたが、清掃ゴンドラ、キャットウォークを含めた初期費用の増大、透明に保つための清掃費、破損、ガasket劣化等のメンテナンス方法と費用、夏の内側の温度上昇の予測等。それぞれの予測数字を示し、対策についてお答えください。

4 イベントの影響

計画稼働日数57回では芝生成育不十分(※4、5)

■大分銀行ドームでは、新国立競技場57日の半分以下のイベントでも芝生の生育には大変苦労しています。味の素スタジアムではイベント後は芝生を張り替えています。張替え後は2ヶ月の養生が必要です。このような経験に対してどのような計画を立てていただけるか、具体的に数字でお答えください。(※4、5)

5. 芝生更新周期

高価(約1億円/回)、張り替え後の養生期間はイベント開催不可能

■芝生は張替えに約1億円かかる高価なものです。また養生期間の約2ヶ月はイベント開催は不可能とされています。芝生の根腐れを考えた更新周期は年2回とお聞きしましたが、その工事費、養生期間のイベント不可能は計算されていますでしょうか。数字でお答えください。

※4：失敗事例：大分銀行ドーム(2013年1月31日 大分合同新聞)

・開閉式屋根故障が多く(年4回/2012年度)、竣工後10年余りで多額の改修費(4億8000万円/2012年度)必要となっている。

・日照と通気の悪さから芝の根付き悪く、2008年に9000万円かけ、芝全面張り替えしたが問題解決できず。予定の日本代表強化試合は、他会場へ変更となった。

・年間稼働日数が新国立競技場想定(57日間)の半分にも拘わらず、天然芝の管理に今も苦労している。

※5：失敗事例：味の素スタジアム X ジャパン二日連続公演後、FC東京が使おうとして、芝の状態に激怒。スタジアム側が5～6000万円で芝を張り直した。(元 都の2016年オリンピック招致担当課長鈴木知幸さん発言(「世界」8月号))

C：可動式屋根に関する諸問題

1. 可動装置

大型可動装置の同期動作は難度高く信頼性不明かつ高価 (※8)

■大型の可動式屋根について、同期操作は難度高く、かつ信頼性が乏しい。大分ドームでは、固定したトラス梁の上をテント屋根を開閉するための数十の車が動き、各動きがずれると同期し直すよう、超高度なプログラムが出来ていたにも拘わらず、動かなくなった失敗例（現在復旧）がある。

・基本設計終了時点で技術的検討が終わっておらず、コストも不明なままで実施設計以降に進めることは無責任ととられてもおかしくない。その責任の所在、及び実施設計以降に技術的な検討を可能とするゼネコン依存型の根拠はどこにあるかお示しいただきたい。また、沖塩先生などによれば、可動装置は30年ごとに148億円かかる工事費全部を交換する必要がある。そのためには大規模な仮設足場も数十億かかる試算もある(※9)。毎年の細かな修理もばかにならない。これらの試算をどのような計算をされているか、具体的にお示し願いたい。

□※8：昨年11月試算：開閉屋根工事費148億円。さらに増大可能性大。基本設計終了時に仕様と維持管理、コスト、災害時対応などが決定していない。実施設計時に解決するとは思えない。

2. 可動膜はC種膜

A種、B種に比較して、信頼性低い

■可動屋根の材料はC種の膜材であるという。C種膜は、ポリエステル製に塩ビのコーティングがされている製品で、不燃材料ではなく、耐久性も弱く、遮音性能も低い。出雲ドームではA種膜でありながら、黄砂によって表面が摩耗し、亀裂した事故もあったほどである。本来なら東京ドームのようなA種膜材を使用すべきところ、なぜこれほど弱いC種膜という材料を利用せざるを得ないのか、ご説明を求めたい。

・C種膜は、雨風に対する耐候性も低いことから、イベント時のゲリラ豪雨などでイベントが中止になるなど、施設側の運営上の危険性も高い。その維持コスト、運営リスクなどをどのように計算しているのか資料を提出してご説明をお願いしたい。

□

3. C種膜の耐久性

C種膜は7～10年で取替え必要 張替工事は仮設を含め非常に高価 (※9)

■C種膜は7～10年で取換えが必要である。この10年ごとの貼り替え工事費はいくらか。膜工事費と同時に仮設足場コストがばかにならないが、これをどこまで計算しているか、それぞれ数字でお示してください。

□※9：仮設足場コスト 全面足場でなく、3列足場を移動しながら工事する方式とする。足場コスト（運搬、撤去費込み）は2.1億円、フィールド養生費は1.6億円、計3.7億円。

工事期間 4 か月が必要。(某ゼネコン試算)

※9：仮設足場を 15000 m²全面に行う場合は、約 22 億円の試算あり。

4. C 種膜の止水性と豪雨対応

漏水の危険性とゲリラ豪雨対応厳しい (※10)

■C 種膜は左右のキール部に屋根と天井の間に折りたたまれて収納されている。これがワイヤーの懸垂レールで中央部に向かって拵げられ、中央部で左右の膜が合体する計画となっている。雨水は中央部に集まり、その後 170m の長辺に向かって流れる設計になるはずであるが、左右から合体する部分に固定樋を形成する必要がある。それは十分に雨水を受け止められる大きさか、最近のゲリラ豪雨を考慮しているか、それらの計算をお示しいただきたい。また、開閉の度に膜を折りたたむ構造だが、ポリエステル膜と塩ビコーティングの折り畳みと太陽光などの劣化による耐久性は何回が限度と想定されているか、お示しください。

□※10：折り畳み方式は折れ目の劣化が激しく、ロールで収納し、堅牢な鉄骨フレームの上のレールで中央に張られる方式が良いという検討結果もある。この場合は開放時も大分ドームのように鉄骨フレームとレール下部に樋が常設される必要がある。(某ゼネコン検討)

- ・ C 種膜材の剛性は低く、荷重を下部構造に依存しなければならず、大スパンは難しい。基本的に骨組み鉄骨の上に膜材を架ける方式が必要である。
- ・ 豊田スタジアムの事例のように、三角鉄骨フレームの間に二重膜が折りたたまれ、これが開き張った時（閉蓋時）に、二重膜の間に空気が挿入され緊張する方式であるが、故障多く、修理に 1 年近くかかる。止水はコーティングしかない。(某ゼネコン資料)
- ・ 球の上部で動く方式ではまだ可能性はあるが、ザハ案、5・29 案ともに、中央に向かって下がり、さらに長軸方向に向かって下がる HP シェルのような形状をしている。雨水は 2 か所に集中する構造であり、この危険性は抜群に高い。

5 C 種膜の耐風性、耐積雪性

低い。17m/s (瞬間 24m/s) 以上で開放要。 予期せぬ突風時の対応に疑問あり (※10)

■C 種膜は耐風性に低く、説明でも 17m/s、瞬間風速で 24m/s 以上の場合耐えられずに開放するとされている。ただしこれは 10m 地点の気象庁観測で、それよりも 50m ほど高い地点での風速は 2~2.4 倍の風速が予想され、瞬間風速最大 60m/s になる可能性あり、C 種膜はこれに耐えられない可能性が高い。10 年交換時期以前にも修理回数増の危険性大きい。

- ・ 耐積雪性も、30cm 以内と言われるが、気候変動により、豪雨や局部的ヒョウ被害も記録されている今後の気候を考えるともっと耐候性の高い製品を使うべきであると考えられるかがか？

□

D：イベントホールの性能

1. C種膜 低い遮音性

外部環境への影響 C種膜は遮音性が期待できない(5～10db)

■C種膜は大音量のイベント時のける外部への影響を少なくする、遮音性を高めるために計画するものと説明されている。大音量の500hzの低音域で45db以上遮音するには、東京体育館では固定屋根で275mm(空気150mm含む)で達成している。C種膜は5～10dbしか遮音できない。これを採用する意図に関する説明を求めたい。

2. イベントで生ずる振動の影響

観客飛跳ね振動(好乗り)は免震でも避けられない、(※11 実例)

■イベント時のタテ乗りによる振動は、京セラドーム大阪の例にあるように、免震装置でも吸収できないやっかいなもので、周辺500m以内～1000m以内の住民への影響は無視できないはずである。東京ドームでも同様の問題が起きている。これに対する予測と対策はどうお考えか、お聞かせいただきたい。

3. ガラス面の遮光、清掃

電動遮光ルーバー設置、高所、特殊形状で高価、清掃装置等 (※12)

■芝生の成育のために屋根にガラス面を設けた結果、屋根面よりもかなり高価な特殊形状をしたサッシを開発することになりました。逆に昼間の音楽イベントなどでは完全遮光も必要となります。このための電動遮光ルーバーの設置が必要となり、コストが増大します。この電動遮光装置は小さなモーターでシャフトを回転させるもので、故障も多く、定期的な点検、交換も必要となります。この建設コスト、メンテナンス、交換時期、維持管理コストの試算を数字でお示してください。

・同時に、約1万㎡のガラス面は、高所でかなり水平に近く、水密性能、ガスケットなどの紫外線劣化など、高度な技術となります。そして黄砂やPM2.5から表裏とも透明に保つための日常の管理費用及び、劣化や破損の修繕費などにどのくらいの経費がかかるか、仮設足場費用と共に積算根拠を数字でお伝えください。

4. 残響時間

残響時間が長くなり明晰性が懸念。

■全蓋の気積の大きさから、残響時間が5～8秒となっており、実施設計において2秒以内にするように指示されたとありますが、残響時間は気積の大きさからほぼ決まるものであり、天井面をかなりの吸収面としても文化イベントの80db以上の大音響を処理すること

はできません。無理な要求を与えても不可能なものは可能にはできません。したがって、少なくとも 5 秒のホール（欧州のカテドラル並）における明晰性のないホールであることを自覚し、その中で、音響を下げたり、小さなスピーカーを多量に配置するなどの工夫が必要です。「嵐」などのイベント音響は、持ち込みで行うことが普通ですので、残響音効果を短くすることは無理となるでしょう。この点に関して対策をお教えてください。

5. 冷暖房空調

酷暑期冷房負荷の為の設備過大

■2020 年の東京オリンピックがアメリカのフットボールTV中継のスケジュールに合わせてことになり、7月、8月の最も高温多湿（※資料）の季節に行われるという、大変不幸な条件となりました。このために普通の競技場では必要ない冷房装置が必要となり、しかも 8 万の各座席下からの局所空調設備をするという、一般オフィスと同じような贅沢で高価な設備が計画されています。この設備費として、また運営光熱費及び修繕維持費にどのくらいの経費がかかるかの試算を数字でお教えてください。また、これを節約するためにも時期をずらす方法は検討されたのでしょうか。

6. 換気

常時機械換気が必須になる懸念

■換気と遮音は相反する条件となります。遮音のために全蓋とし、気密性を良くするために周壁を開放でなく、サッシで閉じることになると、機械による空調・換気装置が必要となります。この空調・換気を少ない数の機械で行おうとすると、大型のファンが必要となり、機械音と羽根切り音が大きく、近くの人には音楽も聞けない状態になります。一方、小さな換気装置を大量に配置すると、ダクト装置や排気塔などの設備が多量に必要となり、高価な設備費がかかり、同時に運転経費、終戦維持費などがかかってきます。これらの試算を数字でお示してください。

7. 可動式観客席

アンツーカー陸上走路への影響

■約 1 万 5 千席の可動式観客席が最下部に計画されています。計画では可動席は 9 レーンのアンツーカー上に約 15m、各段ごとにせり出してくる方式を採用しています。これは通常行われる方式ですが、各段毎に細い鉄骨の台車が移動し、上部の観客の荷重を支えます。この方式では下部のアンツーカーへの影響が課題となり、パレットや鉄板のような養生が必要となる恐れがあります。また、可動装置は 30 年で交換の必要があります。

可動式観客席の建設コスト、移動設置時間、移動時の下部走路への負担、修繕維持費の試算などを数字でお示してください。

□

E : .建設に関する諸問題

1. 建設費

2016年、25%UPとして2,100億円。さらに労働力不足等予測不可能の増懸念（※13）

■建設費は2013年11月時の積算で1625億円と計算された。5月29日案は積算が未公表。現在の建設市況では月に1%ずつ高騰し、試算では15%現在増加。今後さらに増加し、2016年の入札時には約25%アップし、建設費は2100億円と予測される。さらに、現在ゼネコンに提案を求めているが、キールトラスを含めた上部工事に対して、キールトラスの工事費が200~300億円かかるとの概算もでており、このままでは全体工事費は2000億円を超えると考えられます。さらに今後の労働力不足等、復興に輪をかけたオリンピックバブルによって、予測のつかない建設費の増額が予測される。現在1625億円以上の発表はありませんが、本当はどこまで高騰するか試算をお知らせください。

9月8日の建築5会との説明会で、建設費アップはやむを得ない。その増分は費用負担者(国と都)をお願いしていく。と説明されました。例えば2000億円となると、1625億円に加え、増分375億円も税金で負担することになりますね。それを予定しているということですね。

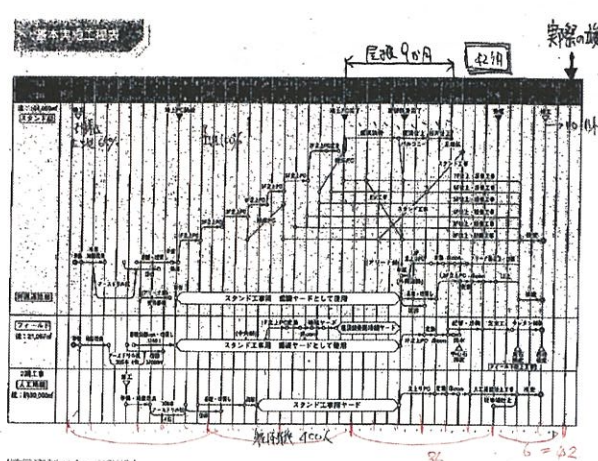
□※13： 膨大さの比較：①東京都インフラ予算約3,000億円、福祉予算約1,600億円 居千万都民の土木費や福祉予算に匹敵する税金の使い方が、都民、国民の理解を得ることができるか。

・文科省のメダル獲得のための強化育成プロジェクト予算、マルチサポート戦略予算は約32億円ととても少ない。もし、無蓋案となり、工事費が1000億円以下で可能となると、余った625億円は強化予算の4年間で約5倍となり、金メダリストも数十人増加する可能性が生まれる。

2. 工期の延長

建設期間増、設計期間増（建築センター評定含む）の危険、2019年のラグビーワールドカップまでに完成疑問??

42か月工期は横浜アリーナ例（42か月）と比較して大変少ない。延長の可能性は大きい。さらにセン



ター評定の高度技術多く⇒設計工程増加の危険性も高い（現時点把握不能）。

■スケジュールについて、工期 42 か月とありますが、屋根なし、免震なしの横浜国際アリーナで、屋根に 9 か月、全体 42 か月かかっています。新国立競技場での多くの高度技術を考えて 50 か月程度は必要になると想定。これらに対して、どのように対応するつもりかお聞かせいただきたい。（※14 某ゼネコン資料）

・また設計過程でも、屋根を支える橋梁なみの土木スケールのキール鉄骨、キールから屋根を支える二次鉄骨、屋根のガラス面サッシ、開閉膜などの高度技術が多く、いくつもの建築センターによる評定が必要な高度な設計内容である。この審査用書類は膨大で、評定期間が増加すること、そしてこれは現時点で期間を把握不能なものであり、所定の工期を大幅に超えることが想定される。これらにたいしては、どのように対応するつもりかお聞かせいただきたい。

・上記の高度技術の多い設計について、設計期間が延長し、建設工期が延長する危険性が高く、スケジュールを予定通り行うことが難しいと懸念されます。全蓋案という、高度で新しく開発する技術でなく、観客席屋根案のような、既存の技術を利用した計画をすすめることにより、2019 年ラグビーワールドカップまでに完成させることが出来るものと考えますがいかがお考えでしょうか。

□

3. 建設に伴う技術的問題

芝生、騒音、可動式屋根建造等に伴う高技術、期間等リスクが解決できない危険性大

■芝生、騒音、可動式屋根建造等に伴う高度技術により、期間、コスト等のリスクが解決できない危険性が大きくなっています。無理やり設計に押し付けたり、建設会社に押し付けてもどこかでひずみが出てくるものと懸念します。建設会社からも悲鳴が挙がっています。現在建設会社に提案を求めています。私たちは正直にコストをはじき、出来ないものは出来ないと言い、予算内に収めるには無蓋案を提案するよう求めるつもりです。私たちは反対を言っているのではなく、全てに無理を強いることなく、適切な国民が納得する予算内で作る案に変更し、将来に希望を届けられるようにすることが必要だとお伝えしているのです。これらをどのように対処するつもりかお知らせください。

□

4. 構造システム その影響

高価（キール鉄骨、免震装置：材料費＋運搬＋工事費膨大）、工事仮組みサイトの不足、免震の必要性に対する疑問

■開閉屋根を支えるためのキール鉄骨も建築の常識を超える高価なコスト増を招いています。鉄骨材料コストだけでも 40～50 億円、それに製造費、運搬費と工事費がかかります。

この断面積で約 80 m²ともなる巨大なキール鉄骨を、狭い敷地でどのような段取りで、仮設から楊重、溶接するお考えですか、建方計画をお聞かせください。

- ・さらにその断面を少なくするための免震装置もまたコストを高くしています。
- ・次から次へと上塗りすることで、高度な技術を駆使するように動いています。これが将来の日本の建築界の大切な技術でしたら頑張るところですが、無意味な高度技術を実現するために、危険な工事を強制することがどんな将来に結びついているとお考えですか？
- ・全体に開閉屋根をやめるなど、軽装備にしてコストを安くする動きをつくることは考えられないでしょうか？

□

F：社会的イメージ

1. 都民、国民のイメージ

メディアのアンケート調査でも悪化 隠ぺいプロセスに不信感増大(※14)

■日経新聞の 6/4 のアンケート調査では、コストについて 71%が高い、ザハ案をかつこよいと思う人 19%、嫌いと思う人 49% 新築より改修すべきだが 60%となっています。

日経新聞の 7/24 のアンケート調査では、見直しすべきが 84.7%、規模縮小すべきが 34.9%、改修案でいくべきが 40.9%、費用抑える案としては、新設よりある施設を活用すべき、民間施設を活用すべきなどが挙げられています。

同時に、公開型でなく進めているお上依存型民主主義プロセス (※宮台氏) にも不信感が増大しています。これらの都民、国民の声にどのように応えるおつもりですか。

□※14： 日経新聞 6/4 アンケート：コスト 71%高い、ザハ案をかつこよい 19%嫌い 49% 新築より改修 60%

日経新聞 7/24 アンケート：見直し 84.7%、規模縮小 34.9%、改修 40.9%、費用抑える案：新設よりある施設を活用、民間施設を活用など

2. 国際的イメージ

海外メディアの批判が急速に拡大している (※15)

■国際的メディアも批判的記事が急速に増大しています、これらの批判に対してどのようにお考えですか。

□※15：①エコノミスト誌 7月 11日：東京五輪開催準備の様子を「俗物根性」と報道—新国立競技場を「無用の長物になる」と警告

②Kelsey Campbell-Dollaghan・Gizmodo US7月 8日：オリンピック開催地の大きすぎる負担、立ち上がる都市と市民

③THE JAPAN TIMES ST 7月 8日 National Stadium canopy has design flaw, architect says Canopy material is flammable, not suitable for roof: Moriyama

④THE TIMES 6月 30日 Architects in revolt over ‘giant carbon fibre cycling helmet’

The biggest objection is not to Zaha Hadid stadium's design, but to its scale, and location.

3. 都政

都費用負担増大の懸念 霞ヶ丘アパート住民移転懸念増大

■東京都の舩添知事は、都費用増大の懸念を示しています。

霞ヶ丘アパート住民に対する強制移転の懸念も示しています(140620※)。強制移転はする予定でしょうか、今後の予定を具体的にお教えてください。

□やっぱり住み慣れた所を動かたくないというようなことがあるので、粘り強く町の皆さんで協議会作ったり、エリアマネジメントの会を作ったりしておやりになってると思えますけど、そういうことをおやりになってるのかどうなのか、これも私は現場も見ていないし、そういう報告も受けておりませんので、これはちょっと報告を受けて、そしてまた、できれば現場を見て、そういう判断をしたいと思います。140620※舩添知事の部屋記者会見

G：修繕維持費

1. 修繕維持費

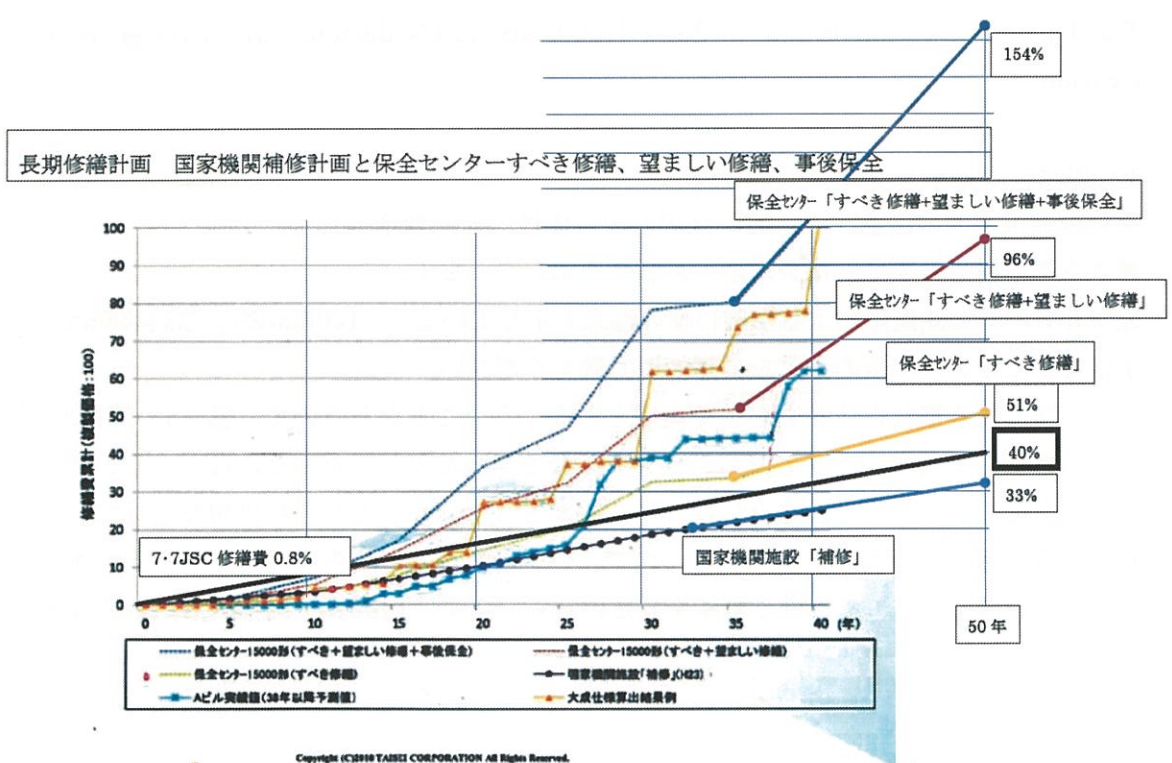
14.1 億円(0.8%)／年のみ計上。

50 年間建設費×154%の修繕費、可動部分 30 年交換費、可動膜 10 年交換、空調交換費、可動座席、ガラス清掃などが高騰させ、全体で約 70 億円/年必要となる。(※16)

■8月20日発表の資料では、50年間の大規模修繕費をおよそ656億円必要と計算。これは1625億円の40%。7・7説明会で毎年0.8%との説明と変わらず。この1/50は13.12億円。修繕費は約半分の6億4千万円と試算。しかも、13.12億円は税金で補てんする計画である。この656億円の内訳及びその他の費用算出をお教えてください。

□保全センターの統計では、修繕費は50年で建設費の154%かかるとされています。本体建設費予測を約2,100億円とした場合、50年で3234億円、1年で64.7億円。これに可動部(可動屋根、可動座席)の30年交換、C種膜の10年交換などを加えると、年間70億円以上の修繕費維持費が必要になります。

- ・50年間で40%の維持費は、国家機関施設の補修費基準(H23)約33%に近い数字。
- ・保全センターの最低の「すべき修繕(約51%)」にも満たず、本来、保全センターの「すべき+望ましい修繕」(約96%)、「すべき+望ましい+事後保全」(約154%)にすべきであり、これには「すべき」に対して1.27倍、「すべき+望ましい」に対して2.4倍、さらに最もふさわしい「+事後保全」も加えると3.85倍の修繕費を用意しておかなければならない。



H：年間予想収入

1. 企業賃貸スペース、会員・迎賓シート

企業賃貸スペース 14 億 4 500 万円企業メリット少なく困難 (※18)

会員・迎賓シート 14 億 3110 万円。企業メリット少なく困難 他の施設の現状からみれば全く過大な希望値 (※某ゼネコン)

■2006 年に人口が減少し始め、2050 年には 75%の人口縮減社会が予測されています。最近 10 年間の景気低迷期が長く続き、企業の体力も落ちています。企業賃貸スペースと会員・迎賓シートで 29 億円の収入見込みですが、57 回開催で企業が支払う金額は 1 イベント 5000 万円を超え、しかも特定チームなどのスポンサーでない条件で保持する企業は難しい。このような企業へ依存しなければ成立しないことについて、どのようにお考えか、お教え願いたい。

□※18：企業賃貸スペース (14.45 億円) + 会員・迎賓シート (14.31 億円) (⇒11 億 + 12.5 億円修正 0820) で 29 億円 (⇒23.5 億円) の収入見込みですが、57 回開催で企業が支払う金額は 1 イベント 5000 万円 (⇒4000 万円) を超え、これからの時代に難しい。

※18：50 億円収入計画を 38 億円に下方修正 (0820)。

2. 一興業当たり.税負担の考え方

可動屋根による増収分は 5.6 億円 (⇒4.6 億円修正 0820) にすぎない

会場使用料 1 回あたり 4.1 億円税負担 (※19)

■可動屋根による収入の増分は、全興行収入 12 億円 (⇒10 億円)、内文化イベント 7 億円 (⇒6 億円) (現競技場 1.4 億円より 5.6 億 (⇒4.6 億) 増)である。これに対する費用は全蓋屋根、開閉膜遮音装置 (雨風も凌ぐ屋根)、人工的芝生維持装置等数百億円、それらの維持管理費用等毎年数十億円など多額で、常軌を逸している。これらのバランスについてどのようにお考えか、お教えいただきたい。

□※17:現国立競技場では過去 5 年間で嵐とラルクアンシエルが合計 15 日間、約 80 万人、収入 6 億円。年間では 1.2 億円。

※19:全蓋案は観客席屋根案より、50 年間で 2500 億円かかるとすると、50 年 600 回のコンサートの場合、会場使用料一回あたり 4.1 億円税負担になる。

